

経営比較分析表

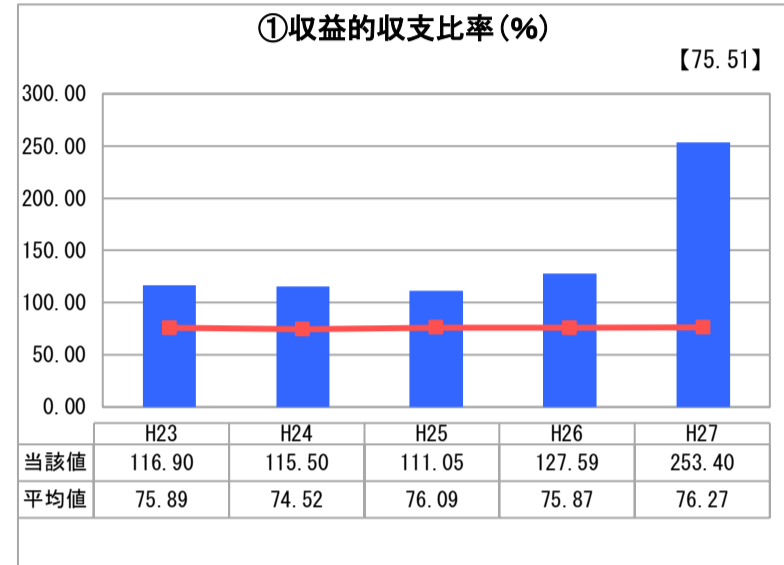
和歌山県 広川町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	63.88	2,962

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
7,423	65.33	113.62
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
4,710	4.36	1,080.28

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成27年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



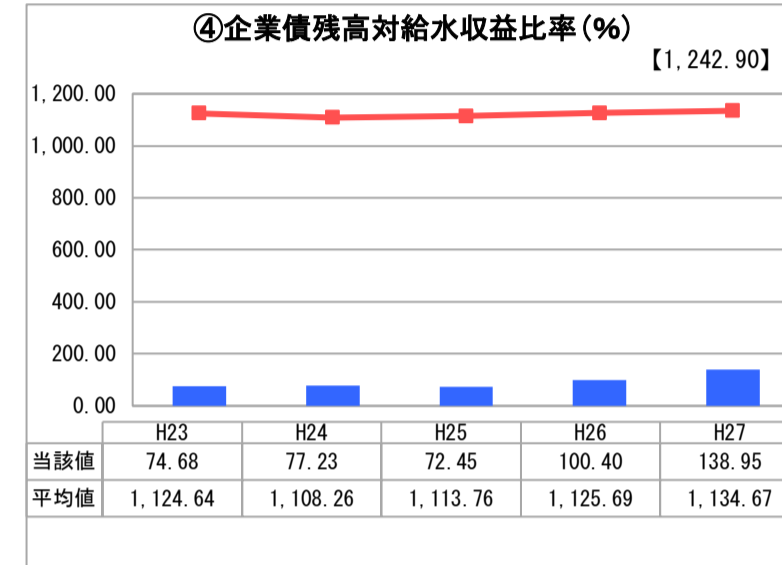
「単年度の収支」



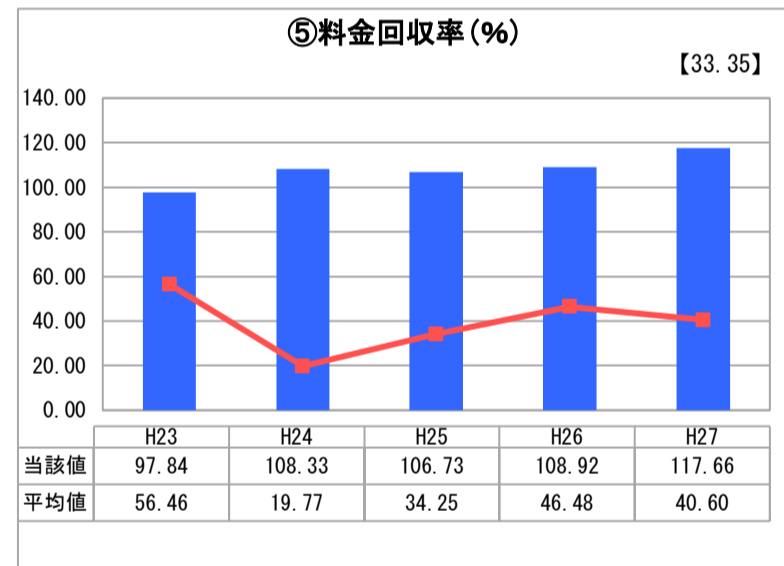
「累積欠損」



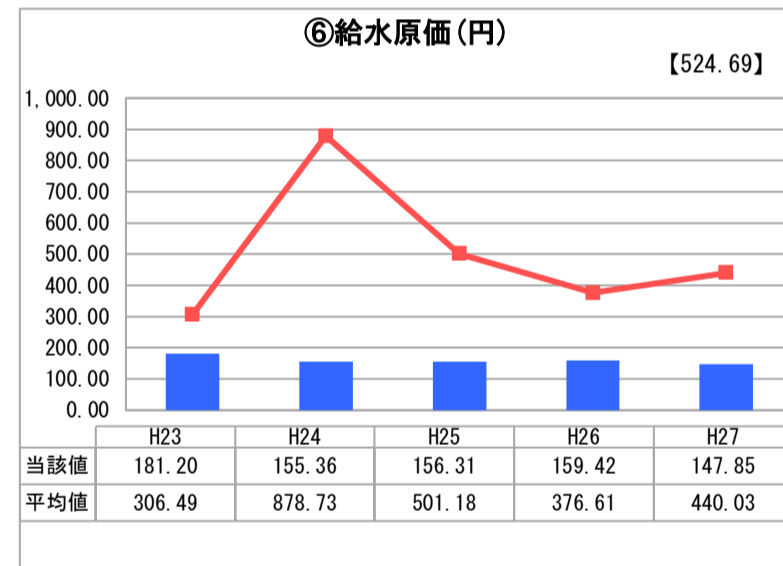
「支払能力」



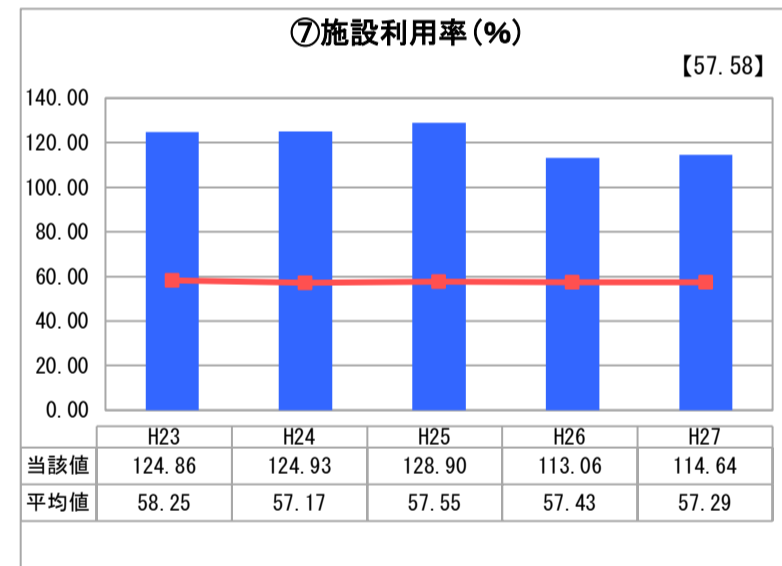
「債務残高」



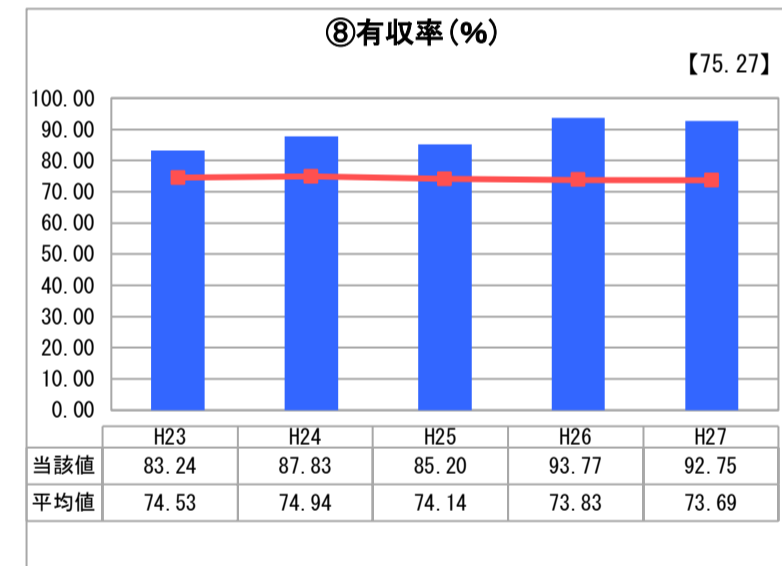
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」

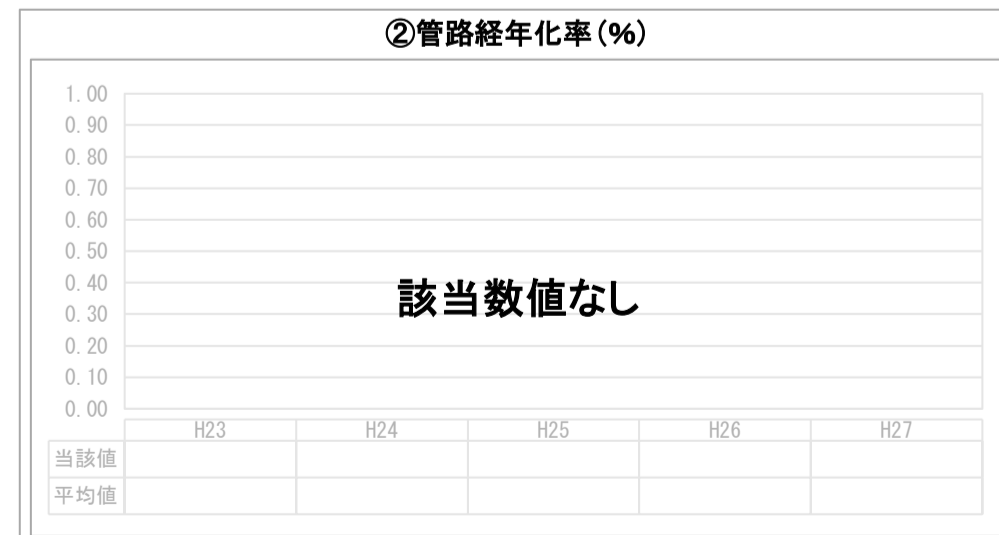


「供給した配水量の効率性」

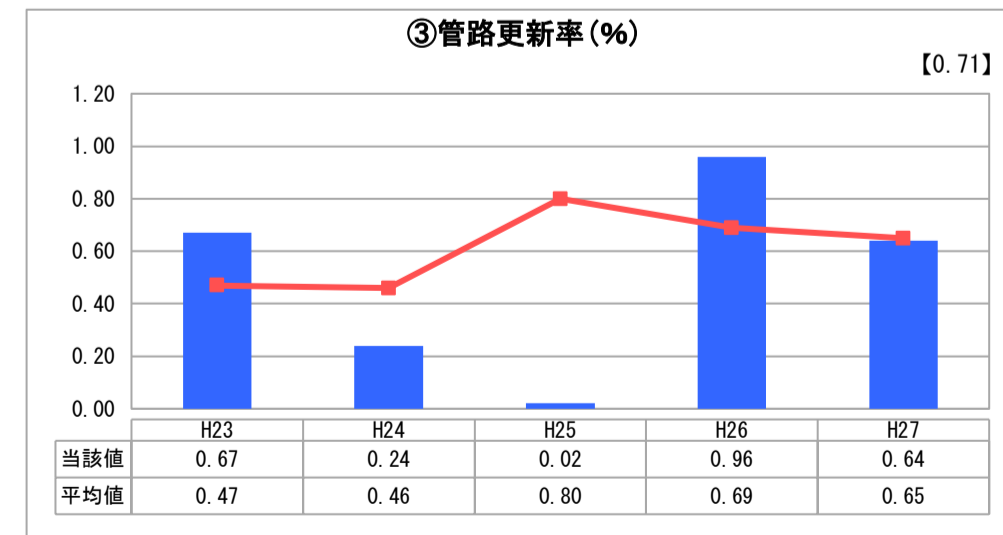
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率については、100%以上を維持しており、現時点では健全経営といえる。27年度の比率が突出しているのは、今後管路の更新等で多額の建設費が見込まれるため、一般会計の余剰金を簡易水道基金へ積立するために繰入れたためである。企業債残高対給水収益比率についても、現状は類似団体と比較して相当低い比率となっているが、簡易水道統合事業の実施による借り入れにより、H27年度の比率は上昇しており、H28年度以降も上がる見込みである。料金回収率については、H23年度のみ100%を下回っているものの、他は100%以上となっており、一般会計からの繰出金についても繰出基準以内で適正な料金水準を確保している。また、給水原価についても類似団体と比較して相当低い原価となっている。しかしながら、料金回収率及び給水原価については、起債償還額と密接に関係しており、今後償還額が増加することで、同指標についても悪化する危険性を含んでいる。施設利用率は110~120%、有収率については近年では80%後半から90%台に推移しており、いずれも類似団体と比較して効率よい経営ができていると思われる。

2. 老朽化の状況について

管路更新率については、1%に満たない年がほとんどで、なかなか老朽化に対応できていない状況である。今後策定する公共施設等総合管理計画により、計画的な更新を図ってきたい。

全体総括

全体として現状は、経営の健全性・効率性については問題ないと思われる。しかしながら、今後簡易水道の統合により増額する起債の償還と、老朽化していく管路の更新等に多額の費用が発生する可能性があり、財政状況を十分考慮の上、施設の更新を進めつつ、健全な経営を維持したい。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。